

陳中日誌

自昭和二十年一月一日
至昭和二十年一月三十日

29603

東京大学文学部蔵

(附巻末・索引)

陣中日誌ノ例式

第一 陣中日誌ハ左ノ諸部團隊ニ於テ作ルヘキモノトス
大本營、各部(郵便部ヲ除ク)(高等司令部)(編制上各部ニ區分ス
ルモノハ其各部毎ニ但郵便部ヲ除ク)兵站監部、各部、兵站司
令部、聯隊、大隊、獨立中隊、砲兵聯隊、設列、堡壘團、獨立
堡壘、獨立砲臺、電信隊、衛生隊、病院、縱列、監視隊、兵馬廠、
豫備員、豫備廠、患者輸送部、馬廠、
留守司令部及補充諸部隊ニ在テハ右ノ區分ニ應シ留守日誌ヲ
作リ首トシテ第三項乙ニ掲ケル項目ニ準シ記載スヘシ
第二 陣中日誌及留守日誌ハ諸部團隊動員令受領、自ヨリ記載
スヘキモノトス
特別部隊等ニ在テハ先シ到着セシ將校又ハ同相當官之カ記載ヲ始
メ後ニ之ヲ主任者ニ移スモノトス
第三 之ヲ作ルノ目的ハ左ノ二項ニ在リ

甲 各人若ハ諸部團隊ノ經歷若ハ遭遇シタル貴況ヲ記載シ
一 三戰史ノ用ニ資シ一ニ各人ノ勤務ヲ他日銓衡スルノ參考ニ
供ス

乙 編制、教育、補充、給養、衛生、武器、彈藥、器具、材料、被服、
裝具等凡テ軍事ニ關スル事物經驗ヲ録シ將來改良材料ト爲ス

第四 甲ノ目的ヲ達センニハ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

一 命令、訓令、通報 (機密作戦日誌記載セラルルハ口頭傳ニ其ノ要領ヲシテ附記スヘシ)

二 每日ノ位置圖 (某地ヲ去テ某地ニ留ル等)

三 行軍、宿營ニ關スル事項

四 戰鬪ノ景況 (戰鬪ノ顛末ヲ記載スヘシニシテ隣接部隊トノ關係及緊要點
時機ニ於ケル部隊位置圖、殊ニ明確ナルヲ要ス)

五 戰鬪間ニ生シタル事件

以上ノ事ヲ記スルニテ時刻ヲ詳記スルコトヲ志ス可ラス又以上ノ事ニ關シ
自己ノ部隊ノ影響セシ事項 (天候、地形、險易、道路、良否、人家、多少等
類)ノ簡短ニ附記セラル可ラス

六 所屬セシ軍隊、區 (當天ノ前長及或ハ本隊先頭ニ在リ等)
七 人員ノ異動

轉任、死傷等將校ノ官氏名ヲ録シ士卒卒及馬正ハ其數ヲ録ス

八 休戰中ノ宿營

九 野戰作業等施設

十 其他凡ソ其一日間ニ生セシ緊要事項

第五 乙ノ目的ヲ達センニハ左ノ諸件ニ注意シテ記載スヘシ

一 武器、彈藥、器具、材料、被服、裝具等ニ關スルコト

二 編制及諸規程ノ作戦上ニ及ボシタル影響者等

三 補充、給養及衛生上ニ關スルコト

四 教育及軍紀ニ關スルコト

五 非常ノ時機ニ際シテ爲シタル非常ノ處置、道例ハ敵地ニ在リテ住

民ニ多額ノ罰金ヲ課シタル等

第六 高等司令部諸部隊諸團隊諸置廢ヲ到達セル命令、訓令、通報及之

ニ送呈セル報告、詳報其他死傷表、武器彈藥損耗表或ハ前哨等
ヨリ至レル報告等ハ凡テ其ノ要領ヲ摘ミ記事、後ニ依書シテ参照ニ備
フヘシ。但各原本ハ種類毎ニ一括シテ保存スヘシ。
秘密ニ屬スル特別任務等ニシテ當時之ヲ日誌ニ掲載スル能ハサル
モノト雖モ其妨ナキニ至テハ成ルヘク詳細ニ其顛末ヲ記載スル
モノトス

第七 凡ソ此ノ日誌ハ月日時(順序ヲ逐ヒ)此ノ名トヲ明記セサル可ラス
而シテ諸部團隊ノ長(或ハ參謀長)之ヲ點檢シ毎日記載ノ結尾ニ捺
印或ハ草押スヘシ

第八 此ノ日誌ハ諸部團隊復員完結ノ日ヲ以テ終局ト爲シ直
ニ本ヲ騰寫シ順序ヲ經テ陸軍省ニ原本ハ其部隊ニ格納スヘシ。
陸軍省ハ此ノ日誌中ヨリ所要ノ事項ヲ抄録シテ之ヲ保存シ他ハ比
參謀本部ニ送り之ヲ陸軍文庫ニ格納スヘシ

第九 此例式ハ必ズ陣中日誌ノ巻首ニ貼付スヘシ

陸軍省編纂部編纂

昭和五年一月日現在 (種)

中 隊 長						
陸軍少尉 梅木忠次						
班 長			指 揮			
職 年 階	内 部 准	度 軍	給 任	機 任	機 任	機 任
9 階	8 階	8 階	8 階	12 階	12 階	18 階
代 名	代 名	代 名	代 名	代 名	代 名	代 名
吉川定信	川嶋英三	桐山外次	大井秀雄	飯田正光	野村一郎	野村一郎
職 年 階	職 年 階	職 年 階	職 年 階	職 年 階	職 年 階	職 年 階
7 階	7 階	7 階	7 階	7 階	7 階	7 階
代 名	代 名	代 名	代 名	代 名	代 名	代 名
神田善作	高見泉一	玉川正久	藤島正三	荒木信一	藪下忠郎	藪下忠郎

第 一 小 隊		第 二 小 隊	
小 隊 長	陸軍少尉 野村市	小 隊 長	陸軍少尉 川合次二
連 下 士		連 下 士	
代 名	代 名	代 名	代 名
代 名	代 名	代 名	代 名
代 名	代 名	代 名	代 名
代 名	代 名	代 名	代 名
代 名	代 名	代 名	代 名

人員表	隊分二第										隊分一第																								
	8	7	6	5	4	3	2	1	長	傳	8	7	6	5	4	3	2	1	長	傳															
大尉			18	15	12	11	7	機	機				19	17	17	7	機	機																	
中尉			機	機	上	上	上	上	上				上	上	上	上	上	上																	
少尉			一	一	一	一	一	一	一				一	一	一	一	一	一																	
准尉																																			
曹長																																			
軍曹																																			
伍長																																			
兵長																																			
上等兵																																			
中士																																			
下士																																			
計	九名										二〇名																								
	小隊長以下										小隊長以下																								
	東	宮	織	米	浦	西	清	山	廣	岩	澤	高	木	大	寺	前	柳	森	大	川	大	西	保	岡	山	吉	草	岩	行	前	塚	高	廣	前	野
	京	野	田	田	山	村	水	田	瀬	野	野	田	村	大	崎	田	澤	野	木	田	鳥	里	山	田	田	田	城	野	川	本	不	田	澤	口	
	間	賢	興	興	崎	崎	善	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	太	水	後	三	數	良	喜	正	次	一	宗	久	久	久	久	三	修	

旅團長ハ今般重ニ移駐ヲ命セラレ重 主カ方面ニ於テ重面ヲナ
ル正面ヲ担任スルコトナレリ 惟フニ旅團主カカ頭方面ヨリ移駐
シテ茲ニ約ニテ月各部隊ハ本職統率ノ下數次ニ旦ル敵機ノ未攻
ニ備シハ勵精克ク作戰ノ準備ヲ整正ヘ以テ待ツアルヲ待ナリ 然ルニ今又移
駐ヲ行ハサルヘカラサルハ情ニ於テ忍ムヘカラサルモノアリト雖モ重全敵ノ為ニ
如何ナル難事ヲモ甘受シ益々志氣ヲ昂揚シ愈々準備ノ優越ト訓
練ノ精到トヲ期セサルヘカラス 移駐ニ関シテハ既ニ數回ノ經驗ヨリ遺
憾ナキヲ信スルモ重要ナル時機ニ際會シ特ニ過去ノ教訓ヲ想起シ左
ニ注意ヲ喚起セントス

一 戦況即應ノ態敵カヲ保持シ特ニ敵ノ空襲ニ備フルヲ要ス
二 警戒ノ最ニシテ行動ヲ秘匿シ掌握ヲ確實スニシテ常ニ戦況ニ應スルノ用意ヲ
必要トスルハ勿論敵機ノ偵察特ニ空襲ニ當リ貴重ナル人馬兵器等
三 皇軍タルヲ於テ失セザルヲ要ス
四 對住民就中軍紀風紀金錢支拂物件ノ貸借等ニ於テハ假令誤解

ニ基クテ雖モ住民ニ疑感ヲ懷カシムルコトアルヲ以テ細心ノ注意ヲ要ス
特ニ當地方民ノ特性ト移轉時ニ於ケル人情ノ機微トヲ洞察シ遺憾ナ
キヲ期スヘシ

三宿營ニ於テハ戰鬪本位ニ徹シ公共建築物ノ利用ヲ努メ已ムヲ得ス
民家ヲ利用スル場合ト雖モ婦女トノ混住ハ絶對ニ之ヲ許サス

材料ノ許ス限リ速ニ兵舎ヲ建築ホスヘシ
宿舎兵舎ノ選定ニ當リテハ先ニ防空施設ニ着意シ要スレバ之ヲ
急設シテ對艦砲射擊等ニモ遺憾ナキヲ期スヘシ

四前駐部隊トノ間ニ感情ノ衝突ヲ来スヘカリス
互ニ提擄シテ同一戰場ニ生死ヲ共スヘキ戰友間ニ於テ些細ノ事情ヨリ感情
ノ疎隔ヲ来スカ如キハ國軍ハシテ恥スヘキ次第ニシテ爾後ノ作戰ニ影
響スヘキモノナルヲ想ヒ前駐部隊ノ殘置兵員及物件ニ就テ特ニ
然リトス

五防謀上ノ注意ヲ陪從スヘシ
言動ヲ傳シ機秘書書類ノ紛失ナキハ勿論特ニ中頭方面ノ兵力稀
薄カ敵ニ察知セラレタル場合ニ於テ軍不利カ如何ニ大ナルヤ想ヲ
致シ細心ノ注意ヲ要ス

以テ外軍ノ作戰構想ハ新舊兩地区ニ於テ當兵團ニ與ル作戰任務ニ
大ナル差異アルヲ以テ各級指揮官以下克ク之ヲ判ヘ新任務ニ基クテ
勝方策ニ遺憾ナキヲ期スヘシ
最後ニ本職ニ處テ各部隊ハ克ク本職ノ意圖ヲ体シ軍紀風紀ノ
刷新ヲ作戦準備ニ培モ本職兼下部隊ノ如ク愉快ニ服務カスルニト
シテ得ル事ニ關シ更ニ注意ヲ表ス
戰局日切迫シタル今日切ニ諸官ノ自重ト武運ノ長久トヲ禱ル

昭和三十年一月三十日

獨混成第四旅團長

鈴木少將

ニ其ノ上ト雖モ住民ニ疑感ノ懷カシムコトアルヲ以テ細心ノ注意ヲ要ス
 特ニ當地方民ノ特性ト移轉時ニ於ケル人情ノ機微トヲ洞察シ遺憾ナ
 キヲ期スハシ

三宿營ニ於テハ戰時本位ニ徹シ公共建築物ノ利用ニ努メ已ムヲ得ス
 民衆ノ知見ノ場合雖モ婦女ノ混住ハ絶對ニ之ヲ許サス

材料許ノ限リ速ニ兵舎ヲ建築スルハシ

宿舎ニ於テハ先カシテ衛生ニ着意シ要スルバシ
 急設ニシテ衛生ニ着意シ要スルバシ

戰時本位ニ徹シ公共建築物ノ利用ニ努メ已ムヲ得ス
 民衆ノ知見ノ場合雖モ婦女ノ混住ハ絶對ニ之ヲ許サス
 材料許ノ限リ速ニ兵舎ヲ建築スルハシ
 宿舎ニ於テハ先カシテ衛生ニ着意シ要スルバシ
 急設ニシテ衛生ニ着意シ要スルバシ
 戰時本位ニ徹シ公共建築物ノ利用ニ努メ已ムヲ得ス
 民衆ノ知見ノ場合雖モ婦女ノ混住ハ絶對ニ之ヲ許サス
 材料許ノ限リ速ニ兵舎ヲ建築スルハシ
 宿舎ニ於テハ先カシテ衛生ニ着意シ要スルバシ
 急設ニシテ衛生ニ着意シ要スルバシ

一〇九〇〇

新年拜賀式

二〇九三二

空襲警報發令

對空監視

全

陸軍軍兵

全

織田吳市

火舎三九郎

將校以下五二名(夜度次四・謝名九・渡久地一)

一〇八〇〇一—一〇〇〇

陣地構築作業

獨立混成第一五聯隊日々命令一月二日

二臨時軍馬各隊ニ配當首實與ス各隊ハ同様大尉

ノ指示ニヨリ夜領スハシ

末馬

金火號

梅木中尉



一月日晴
 午後
 夜度次

勤務

人員

一月日晴
 午後
 夜度次

夜領
 末馬

榮

人員

將校以下五二名(復原次四・謝免夜急地二)

榮

人員

一 休養
二〇九〇〇

榮

人員

空襲警報發令同時敵機十數機來襲
將校以下五二名(復原次四・謝免夜急地二)

榮

人員

一〇九〇〇

榮

人員

新諭奉讀式
大隊長訓示要旨

榮

人員

空襲警報發令同時敵機六機來襲
三二〇〇〇

榮

人員

外出者 一六名
詳表以下五二(復原次四・謝免夜急地二)

榮

人員

一〇八〇〇一七〇〇
各小隊 傳譯地機集 (謝免)

榮

人員

指揮班 座喜味陣地機集
中隊命令 一月五日

榮

人員

進着下重 陸軍佐長 山本久次
今上重兵 今上兵 菊山建治

榮

人員

鹿島香 今上兵 木村徳太郎
今上兵 全澤武光
將校以下五二名(復原次四・謝免夜急地二)

榮

人員

一〇八〇〇一七〇〇

渡慶次	各小隊 傳陣地構築(海岸)
奉仕隊	指揮班 座喜味陣地構築
人員	二 本日より築城協力者ヲ配當せらる
渡慶次	渡慶次 築小隊 五〇名
儀間	儀間 築小隊 二五名
將校以下五二名	(渡慶次四三謝本九渡久地二)
渡慶次	一〇八〇〇—一七〇〇
奉仕隊	各小隊 傳陣地構築 (海岸)
渡慶次	指揮班 陣地構築 (座喜味)
渡慶次	二 渡慶次 五〇名
渡慶次	儀間 一八名
渡慶次	三 外出 一四名
渡慶次	井上隊命令 一月七日

渡慶次	一月八日 陸軍始八平常通
渡慶次	陸軍一算兵 大木弘
渡慶次	右軍專裝蹄、爲明八日即日歸隊ヲ以テ岩城村
渡慶次	球第六三六部隊ニ出張ヲ命ズ
渡慶次	將校以下五二名 (渡慶次四三謝本九渡久地二)
渡慶次	一 裝蹄、爲〇五〇。大木等兵、東軍長出發ス
渡慶次	二 〇八〇〇。大詔奉讀式 中隊長訓示
渡慶次	三 〇八〇〇—一七〇〇
渡慶次	各小隊 傳陣地構築 (海岸)
渡慶次	指揮班 陣地構築 (座喜味)
渡慶次	四 渡慶次 二九名
渡慶次	儀間 八名

受領
井作
第...
號

北地区隊命令

一月八日午後

一 地区隊...
二 各隊ハ別紙計畫ニ基キ伐採ヲ妥員施シ所定地区ニ集積ス
三 伐採ニ當リテハ盤伐ヲ戒ルル上ニ特ニ現地準備隊ト協定
妥員施ス

人員	勤務	徑	種	長	種	本	數
		一〇	一〇	一五〇	一〇〇	一一〇	五五
		二〇	二〇	二〇〇	二〇〇	二六	
		一〇	一〇	一〇〇	一〇〇	五五	

用務 (三角兵舎用板運搬) 塚本等兵高田一等兵
將校以下五名 (渡度次 四 謝名九 渡久地一)



一月九日晴
渡度次

一月十日曇
渡度次

一〇八〇〇一七〇〇	各小队	修陣地構築 (海岸)
二〇八〇五	指揮班	陣地構築 (座喜味)
三〇九〇〇		空襲警戒報告令
四〇九三〇		中隊全員歸營
五〇一〇五		空襲警戒解除
六一三〇〇一七〇〇		中隊長學科 (將校下士官)
七一五二〇		空襲警戒解除
八一三〇〇一七〇〇		射撃隊行渡習
	將校以下五名	(渡度次 四 謝名九 渡久地一)
一〇八〇〇一七〇〇	各小队	修陣地構築 (海岸)

奉佐隊

指揮班

陣地構築班

(二座喜味)

一 渡慶次

二 二名

儀 間

一 三名

將校以下五二名(渡慶次四、謝名九、渡久地二)

人員

一月十日晨

一 休養兵 (但：〇八〇〇一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百)

二 外出者 十四名

中隊命令

隊命令

一月十日

一 中隊命令(四號) 奉佐隊(中隊) 明十二日(八〇〇八) 現地

出發 一日(二日) 予定(三) 奥羽村(山田) 寺原地區(於)

奉佐隊(隊) 隊(行)

二 宿營地(久尺) 渡慶次

三 代探地(宿營地) 現地(於) 指示

四 指揮班(各分隊) 兵(右) 隊(留守) 渡慶次(川崎) 軍曹



人員

一月十日晨

指示(受) (シム)

残留者

陸軍軍曹 川崎 英三

陸軍軍兵

高見 宗一

全上等兵 保里 良雄

全

高田 進三

全 高木 雄三

全

宮林 賢敏

軍曹

陸軍軍兵 玉川 正久

陸軍軍兵

廣 額 一 確

全 米田 正治

概 七 留 者

陸軍軍兵 金澤 武光

將校以下五二 (渡慶次四、謝名九、渡久地二)

一〇八〇〇

中隊全員(残留十名) 代探(送) 出發

伐採

馬車二輛 西高

井崎上等兵以下五名 誘導

井原一親志

四〇本 (一五米)

一一〇〇〇

今歸仁三、西村上等兵連然、淳來隊入

將校以下五二名 (残留渡度次) 十、謝名九渡久地 (恩納三)

人員

一、前日二引續、井伐採並二運搬

馬中四輛 西高

井崎上等兵以下五名

井原一親志

七〇本 (一五米)

二六本 (三〇米)

計一五一本

五五本 (一〇米)

二一七〇〇

伐採引降機長

下達命令
中隊命令

中隊命令

一月十三日

遺審士官 階軍伍長

土田次之

今上等兵 今上等兵

井崎與一

鹿上等番 今一等兵

高田進二

今

塚本久信

將校以下五二名 (渡度次) 四、謝名九渡久地 (一)

人員

一休養

二外出者 十四名

井上隊長 令 一月十四日

一、危記、通、日直將校二服務久 (一)

一六日 吉川准尉

一八日

川合少尉

二日 川合少尉

元日

中野中尉

三日 中野中尉

三日

吉川准尉

一月七日
渡度次
井上隊長
中隊命令



人員

一百七十五名
渡度次

二言一吉川准尉	梅木忠次
二陸軍中尉	右車修員トシ野空挺隊副普及教育主任命令
將校以下五二名	(渡度次四二謝名九渡久地二)
一〇八〇〇一七〇〇	演習川合少尉指揮
一轉進要領	前進陣地(坐喜味)ヨリ主陣地
	(一六〇高地)へ移行
二地形地物知得	座喜味—親老—一六〇高地間
二〇X〇〇〇	中隊長・中野中尉對空挺隊副普及教育主任參加
爲出發	
三〇九〇〇	築城用巨材運搬作業



人員

二百七十五名
渡度次

馬車六輛既當	大懸上算兵以下五名
山田一長濱	(第一分隊陣地)間
一六本(三〇米)	計三七本
二一本(三五米)	
三	
中隊長・中野中尉教育ヨリ歸隊	
四	西村上算兵今歸任ヨリ連林・渡久地・座喜味地ヨリ出發又
將校以下五二名	(渡度次四二謝名九渡久地二)
一〇九〇〇一七〇〇	演習中隊長指揮
行軍	主上主陣地方面地形地物知得
三〇九〇〇	
築城用材運搬作業	
馬車六輛既當	西田上算兵以下六名

親老—渡慶次附

四本 (三〇本)

一三本 (三五本)

六本 (三〇本)

二七本 (一五本)

四九本

將校以下五二名(渡慶次四、謝名九、渡久地一)

人員

一月十七日曇一〇九〇〇—一七〇〇

渡慶次

各一隊 陣地構築作業

指揮班(本日)一隊(第四分隊)協力ヲ得テ座喜味

陣地構築作業

二〇九〇〇

築城川村進搬作業

馬車六輛 配當 廣田上等兵以下五名

山田—座喜味間

一八本 (二〇本)

四本 (一〇本)

七九本 (一五本)

一〇一本

中隊命令 一月十七日

強引習

一狀況

十八日〇三三〇 乙號戰備下令セラル

命令

一中隊直ニ配備シテ第一線中隊ト密ニ協同シ敵

上陸部隊邀撃、態勢ヲ完了セントス。

三指揮班、各小隊ハ一號配備(各分隊、最初ニ作リ

陣地)ニシテ速カニ展開ヲ準備ス(シ)

三各分隊ハ着陣後直ニ連絡兵一名宛ヲ指揮班

下巻命令
中隊命令

陣地ニ差出スシ

(但シ本演習ニ於テハ連絡者ハ假想トシ連絡ニ代フルニ烽火ヲ以テ各分隊ノ着陣ヲ合圖スシ)

四隣進命々ニヨリ(隣進命令ハラッバ夕音ニ聲ヲ以テ

ニ代フ)各小隊ハ極力疎散シ隊形ヲ以テ親志ノ南側

ニ又路附近ニ集合シ(集合時ニ於テモ砲爆撃ヲ考慮

シ疎開シタル)後命ヲ待ツヘシ

將校以下五ニ名(渡度次四ニ謝名九・渡久地一)

人員

月七日曇

一〇八〇〇一七〇〇

各小隊ニ指揮班 陣地構築作業

二〇八〇〇

築城用材運搬作業

馬車十一輛配當 廣田上等兵以下五名

山田一坐喜喜味間

五本 (三・五米)

五六本 (三・〇米)

一七本 (三・〇米)

一本 (一・五米)

計八九本

將校以下五ニ名(渡度次四ニ謝名九・渡久地一)

人員

月七日曇

一〇八〇〇一七〇〇

各小隊ニ指揮班 陣地構築作業

二〇八〇〇

築城用材運搬作業

馬車十輛配當 大懸上等兵以下五名

山田一坐喜喜味間

大隊炊事用薪運搬

三 鎮成匠材大隊本部へ引渡す。西田上等兵

長廿二米 徑三〇煙 一 二六本

一五米 一〇 一 二〇本 一九一本

一五米 一〇 一 五五本

獨立混成第五聯隊日台命令 一月十九日

一 陸軍中尉 中野清市

右第五十師團編成要員トテ臺灣軍司令部ニ

出向ヲ命ス

依而明子日旅團司令部ニ到リ内田少佐指示

ヲ受ク

井上隊長命令 一月十九日

一 陸軍中尉 梅木中少次

右本職ノ代理ヲ以テ中野中尉見送ニ付那覇

市ニ出張ヲ命ス

受領
獨立五聯隊
第一四號

井日命
第一四號

人員

百辛日晴
渡慶次

受領
井日命
第一四號

將校以下五二名(渡慶次三、謝九、渡久地二)

一〇九〇〇

中野中尉出發同時、中隊長、岩村軍兵見送出發

二一〇〇〇 一七〇〇〇

各小隊並指揮班 陣地構築作業

北地 區隊命令 一月十九日

一 旅團ハ渡慶次ヨリ軍需品ヲ輸送ヲ命ス

二 地區隊ノ所要ノ兵力ヲ派シ渡慶次ニ差出シ續込作

業ヲ援助セシム

三 各隊ハ死傷人員ヲ一月二十日川合少尉ノ指揮下ニシラ

シム

第一機團砲兵隊 川合少尉 下士官以下九

四 川合少尉ハ二前項人員ヲ併セ指揮シ一月十九日〇〇迄ニ

下達命令
中隊命令
勤務

渡員知到リ腹筋少他ノ指示ヲ受クシ

中隊命令 一月二十日

一	渡査士長	陸軍軍曹	山田三太郎
	渡査士隊員	合上等兵	保里良雄
	既 当番	合一等兵	織田與一
合		合	大島三九郎

人員

將校以下五名 (渡員四 謝九九渡久地一)

一月辛酉晴
渡員次

井日命
渡員次

- 一 〇六〇
- 渡員知糧秣積込作業ノ序ニ渡員長以下一九名出發
- 二 一〇一五 丙號戰備下令
- 三 一〇一〇 空襲警報發令
- 四 一〇一五 空襲警報解除
- 井上隊命令 一月二十日

渡員次
井日命
渡員次

二井日命第九號、日直將校ヲモ、通リ變更ス	二五日 中野中尉	トセラ	川合中尉
三九日 中野中尉			若川中尉
二軍兵器部長狀況視察ニ關シ別紙ニ通リ傳ヘシ	一月二十三日 梅不隊員	一四五〇	座喜味陣地
北地區隊命令			渡員次
一 事情ニ依リ八臺灣島登岸基點八五度一三〇哩ニ至			
B2.C3.D5.ヨリナル敵機動部隊西進中ナリ			
一〇ニ至南西諸島全地區丙號戰備下令セラル			
二各隊ニ速カニ丙號戰備ニ移行ス			
三花ノカケカクカニ對シ監視ニ任セシム			
四各隊ニ退避準備ヲ完了シ至嚴ナル警戒監視ノ下ニ現在			
務ヲ續行ス			

人員

將校以下五一名 (渡度次四、謝名九、渡久地一)

渡度次

一〇六三〇 空襲警報發令

空襲

一六三〇 空襲警報解除

受領

一八三〇 警報解除

井作命

北地區隊命令

渡度次

第四號

一、グロミン戰闘機ヲ主体トシ三機内外、敵ハ本日連續
沖繩本島ヲ龍穴襲撃ス

二、地區隊ハ二十二日夜又二十三日、敵機來襲ヲ豫想シ海
上監視、對空警戒ニ萬全ヲ期シ二十三日以後、對空
戰闘準備ニ消滅ナラズ

三、各隊ハ二十二日夜又二十三日時ニ對空警戒ニ至嚴ナクシテ
對空戰闘ニ萬全ヲ期ス

四、二十日夜更ニ被服、掃帚、其他ヲ夫ハ掩蔽部ニ運

人員

五、二十日夜更ニ於テ假取ヲ許可ス
將校以下五一名 (渡度次四、謝名九、渡久地一)

渡度次

一、前日引續キ甲號戰備ニ準シ兵器、被服、彈藥等
ヲ掩蔽所要ノ人員ヲ配置シ各十隊指揮班陣地構築作業

被服

一、冬袴 二十着

冬襦袢 十五着

冬袴下 十五着

冬襦袢 五十組

在位用ス

將校以下五一名 (渡度次四、謝名九、渡久地一)

渡度次

一〇八〇〇—一七〇〇
各小隊、指揮班、陣地構築作業

終

奉仁隊

渡度次 八名

儀間 七名

將校以下五一名 (渡度次四、謝名九、渡久地二)

月手書晴
渡度次

一〇八〇〇一六〇〇

各小隊指揮班 陣地構築作業

第四分隊 偽砲兵陣地 (職名波)

奉仁隊

二 渡度次 十名

儀間 九名

三 對空監視 (二〇〇一五四〇) 山岩城一算兵

四 外出者 十五名

五月 務 (本部彈藥運搬) 廣瀬一算兵

將校以下五一名 (渡度次四、謝名九、渡久地二)

人員

月手書曇
渡度次

一〇八〇〇一〇九〇〇

學科 川合少尉

轉進時二於山兵一般心得

三〇九二〇一二二〇〇

演習 中隊長 川合少尉

乙號戰備時二於山轉進準備要領

休養

井上隊長命令 一月二十六日

一 陸軍大尉 橋本安弘

本職不在間大隊長代理ヲ命ス

二 陸軍准尉 吉川定信

右明二十七日聯隊本部ニ於テ實施サル、對戰車の攻査

閱見學隊即日歸隊ヲ以テ上地ニ出張ヲ命ス

受領
井日命
第一六號

人員

特赦以下五一名(渡慶次四、謝名九、渡久地一)

百千五百兩
渡慶次

一 移動準備

二〇九〇〇 先發者出發ス

先發者 前山兵長・高木上等兵・山田一等兵

獨立五隊
第二五號

獨立混成隊第五聯隊命令

第一三三三號

一 軍八中隊本部ニ於テ兵力既配置ヲ一部變更ス

旅團ハ二月一日ハ(〇〇〇)ニ新移駐地ニ移行シ新任務ヲ継

承ス

二 聯隊、幹部ヲ新移駐地ニ派遣シ陣地、偵察ヲ實施

セントス

三 各大中隊長、明(三)日〇九〇〇聯隊本部ニ集合ス(シ)

細部ニ関シテハ別ニ指示ス

二〇九〇〇 中隊長 上地ニ先行

渡領
井作命
第五號

第二大隊命令

第一二七〇〇
渡慶次

一 聯隊、近ク現配備ヲ變更ス

二 大隊、聯隊、配備變更ニ伴ヒ先ニ國民學校ニ集

結商(行)動ヲ準備セントス

三 各隊、嚴ニ企圖ヲ徹底シ、二十七日日没後行動ヲ開始セ

シ夜間機動ニ依リ先ニ越來國民學校ニ集結ス(シ)

二 前進區分

二十七日夜 第四中隊、第六中隊、第三機團銃中隊

四 設置隊、各隊ニ先ニ記兵力ヲ塩原軍曹指揮下ニシ

シ、二十七日〇九〇〇先發セシム(シ)

第三機團銃中隊 兵長以下三

細部ニ関シテハ別ニ指示セシム

五 各隊、兵器、彈藥、糧秣、其他、後送及残務整理

ノ爲ニ記兵力ヲ殘置シ森岡中尉指揮下ニシラシム

ハシ

第三機關銃中隊 隊長以下三

六 給養ハ二十七日夕迄部隊給養トシテ日朝食以降ハ

飯盒炊爨トス

七 各隊ハ集結又機動間時ニ對テ監視警戒ヲ至嚴

ナラシメ敵ノ空襲ニ對シ萬遺遺滅テテ期ス

八 機動ニ備リテハ將校以下時ニ防諜ニ留意シ機密ノ

保持ニ萬全ヲ期ス

中隊命令 一月二十七日

一 陸軍少尉 川合次二

本聯獨混五作命第三項ニ其ニ備付ニ先行ニ依而

中隊ヲ指揮シ行軍ニ依リ越來國民學校ニ向ヒ前

進ス

二 陸軍兵長 浦山健二

下連命令
中隊命令

陸軍上等兵 高木唯志

全 一等兵 山田正一

右井作命第五號第四項ニ其ニ其ニ設營ニ任ス

三 陸軍兵長 大懸源作

全 一等兵 前川 遼

全 全 岩村 勇

右井作命第五號第五項ノ残置者トシテ服務ス

四 一三三。 出發

荷物輸送 荷馬車七輛配當

荷物監視者 佐渡伍長 玉川 半苗 藪下 上等兵 高見 要英

五行軍員人員 (前川 村ハ 出發先ニ於本隊復歸)

川合少尉以下二七名

第二大隊 命令 越來國民學校

一大隊 本夜以降暫ク現在地ニ宿營シテ爾後行動ヲ準

浸領
井作命
第六號

人員

備セントス

- 一 各隊、夫々設營者、指示ニ依リ宿營ス
- 二 敬告、庫合場、興正校庭及運動場トシテ空襲ニ依リ退避地域ハ開中尉ヲシテ現場ニ於テ指示セシム
- 三 逐次到着スル兵器彈藥糧秣ハ對空處置ヲ見合ニ
- 四 各隊毎ニ夫々分散集積ス
- 五 給養ハ各隊毎飯盒炊爨ス

將校以下五區渡渡次三〇謝名九渡久地一先發中隊(前夜) 前夜(一)

一月五日(一) 此營(渡渡次)ヲ出發ス

二 行軍 川合中尉以下二七名

三〇五三 越來國民學校ニ到着

四 休養 兵器被服手入

五 朝食ヨリ中隊吹奏ヲ行フ

夜行軍

獨立混成第十五聯隊命令 第一六號

- 一 聯隊一部兵ヲ新移駐地ニ先發セシメントス
- 二 本部副官及主計將校各中隊ヲ下士官一兵一ヲ明テ九日新移駐地派遣ス(明二十九日八三〇本部前二集會シ六村大尉ニ區長處下自前貨車ヨリ新移駐地ニ先發ス) 先發者糧秣十日分ヲ携行スルモノトス
- 三 先發者ハ前任部隊通過路(一月三十一日夕迄)ニ設営官ヲ請準備ヲ怠ラズ

第二大隊命令 越來國民學校

- 一 聯隊ハ所要設営者ヲ新移駐地ニ先發セシム
- 二 各隊ハ先發者ヨリ九日八〇〇大隊本部ニ先出シ開中隊ノ指揮下ニ入ラシメ新移駐地ニ設営官ニ任セシム

各隊 下士官一

糧秣十日分ヲ携行ス

夜行軍

下津命令
中隊命令

渡
獨泥五
榮二四號

下津命令
中隊命令

三、關中尉：前項人員ヲ併セ指揮シ新機班地先打シ...

二、陸軍中隊命令 一月二十八日

一、陸軍伍長 他渡正義

右ハ井作命令第七號ニ依リ改陸軍中隊先發ス...

獨土泥成第十五聯隊日付命令 一月二十八日

一、明二十九日部隊臨時停管馬、改裝ヲ實施ス

依而七、通リ心得各隊踏鉄工務兵全員明二十九日

〇八〇〇胡屋踏鉄工場ニ出シ山田獸醫部見習官

指示ヲ受ケシム

改裝區分 二十九日午前聯隊本部・獨立中隊

元日午後第一・第二・第三大隊

中隊命令 一月二十八日

一、陸軍上等兵 井崎與一

勤務

右ハ獨泥五日命令第四號ニ基キ一庫專裝蹄ニ任ス...

二、元日直、日直ニ服務ス...

月日	日直	日直上	官等	比	官等	比
一月八日	陸軍伍長	陸軍伍長	陸軍伍長	浦山健二		
元日	全	山本久次	陸軍曹長	高木唯志		
三日	全	吉田次之	全	廣田久治		
三日	全	他渡正義	全	廣田久治		

三、陸軍一等兵

廣瀬一雄
岩城宗次

鹿嶋當番ニ服務ス...

將校以下五一名(越來三八渡正次ニ謝名九渡久地ニ)

人員

越來
一月十九日晴 一〇〇〇

先發者 陸軍伍長 他渡正義 出發ス